

あなたを支える人がいます

各種産業機器、自動省力化装置や各種制御盤など
様々な分野で開発から設計・製作を行っています。
「独自の発想」と「確かな技術」であなたの要求を満たします。



株式会社 フォーミット

2022 年度 環境経営レポート

(対象期間 2022 年1月1日～ 2022 年12月31日)



作成日： 2022年3月29日

目 次

項 目	ページ
ごあいさつ	2
環境経営方針	2
組織の概要	3
事業・製品の紹介	3
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	4
環境経営目標及びその実績	5
環境経営計画の取組結果とその評価	6, 7
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟等の有無	8
緊急事態対応訓練	8
代表者による全体の評価と見直し・指示	8
これまでの環境活動の紹介	9



ごあいさつ

当社はこれまで各種自動省力機械を始め、様々な産業機械の設計・製作に従事して参りました。これまでに蓄積したノウハウを駆使して、『独自の発想』と『確かな技術』でお客様の信頼にお応えしております。

今後とも常に高い目標を掲げ最先端の技術に挑戦し、新しい時代を切り開くパートナーとして、皆様に貢献できますよう努力して参りますとともに、社員一人ひとりに環境にやさしい取組みを根付かせ、それが家族や地域社会に広がりを持つように活動を続けていきます。

環境経営方針

環境経営理念

産業機械の設計・開発を通じて、SDGsの実現や脱炭素社会・資源循環型社会等の持続可能な経済社会に貢献するとともに、自らの環境負荷低減に向けて継続的改善に努めてまいります。

環境保全への行動指針

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 環境に優れた産業用装置の開発に努めます。
3. 創意工夫による二酸化炭素排出量の削減に努めます。
4. 廃棄ロスをなくす等廃棄物の発生抑制に努めます。
5. 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
6. 規制物質非含有素材の使用、省エネルギー、省資源、再生資源利用製品など環境負荷に配慮した物品の調達に努めます。
7. 環境保全のため地域の環境活動に参加します。

制定日：2003年5月26日

改定日：2022年2月5日

代表取締役社長

宮原 勇樹

組織の概要

更新日：2019年2月15日

- (1) 名称及び代表者名
株式会社 フォーミット
代表取締役社長 宮原 秀樹
- (2) 所在地
本 社 大阪府豊中市原田元町2丁目21番4号
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 宮原 秀樹 TEL：06-6845-4310
担当者 宮原 秀樹 TEL：06-6842-3510
- (4) 事業内容
産業機械の設計・製作
- (5) 事業の規模
売上高 24 百万円
- | | 本 社 | 合 計 |
|----------------------|-------------------|------------------|
| 従業員 名 | 1 名 | 1 名 |
| 延べ床面積 m ² | 50 m ² | 50m ² |
- (6) 事業年度 1 月 1 日 ~ 12 月 31 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：株式会社 フォーミット
対象事業所：本 社
活動：産業機械の設計・製作

□事業や製品(商品)の紹介

- 各種自動省力装置、一般産業機械の設計・製作の設計・製作
- 制御盤、操作盤の設計・製作



自動省力装置



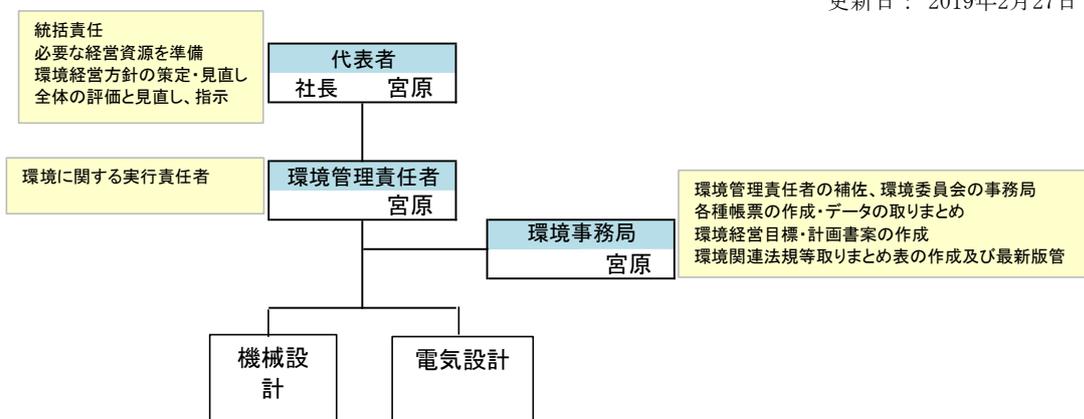
自動検査装置



枚葉式縦型バッファー
搬送装置

環境経営組織及び役割・責任・権限

更新日：2019年2月27日



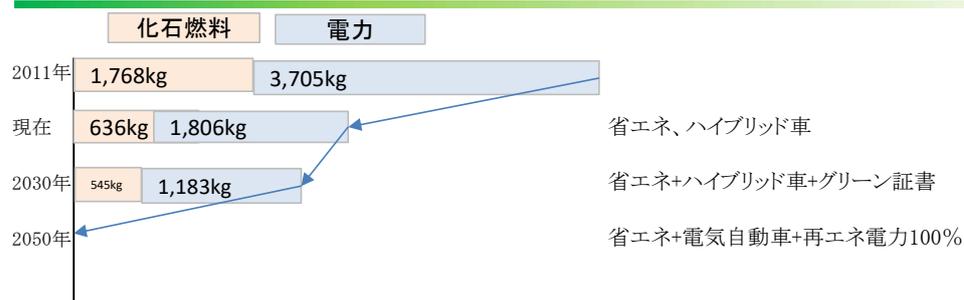
環境経営目標及びその実績

項目	単位	2020年	2021年	2022年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	4,217	4,014	2,276
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	20.8	25.7	10.5
産業廃棄物排出量	kg	0.0	0.0	0.0
水使用量	m ³	— (※)	— (※)	— (※)

※二酸化炭素排出係数 0.318 kg-CO₂/kWh 電力会社の調整後の係数

※水使用量は共用メーターのため把握不可

カーボンニュートラルに向けたわが社の取り組み



項目	年度	基準値 (基準年)	2022年		評価	2023年 (目標)	2024年 (目標)
			(目標)	(実績)			
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	1,902	1,864	1,660	○	1,826	1,807
	基準年度比	2016年	98%	87%		96%	95%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	1,143	1,120	589	○	1,109	1,097
	基準年度比	2017年	98%	51%		97%	96%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	3,045	2,984	2,249	○	2,934	2,904
一般廃棄物の削減	kg	9	9	4	○	9	8
	基準年度比	2016年	93%	38%		93%	90%
グリーン購入の推進 (オフィス用品G購入率)	% (金額率)	—	50%	100%	○	60%	70%
環境に優れた産業用装置の開発	行動目標(次項による)						

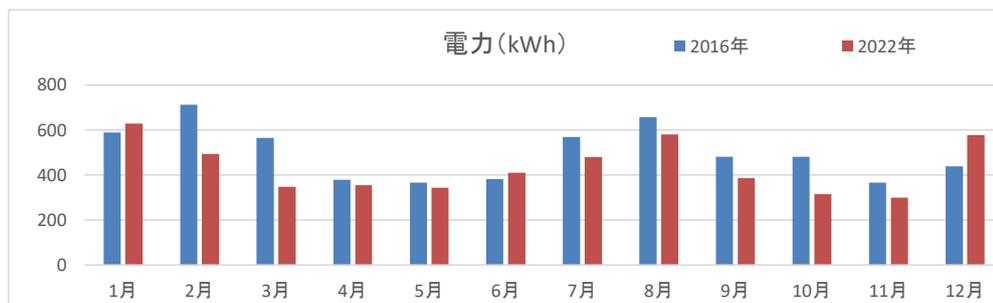
数値評価: ○達成 ×未達成

環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画

数値目標: ○達成 ×未達成

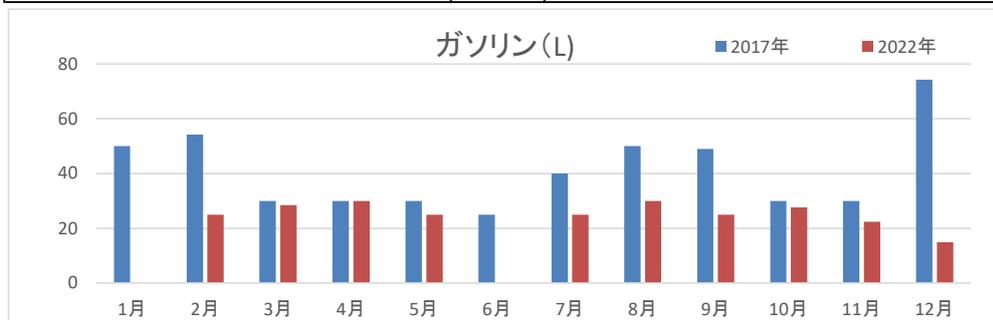
活動: ○よくできた △まあまあできた ×できなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	通年では目標値を達成できた。今後は売上高原単位評価を達成すべく、受注量を増やせるよう取り組んでいく。窓を開けることで
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	自然の風を取り込む。エアコンをつけた場合でも、サーキュレータ
・不要照明の消灯、未使用電化製品の主電源	○	使用し、エアコン設定温度をきつくしない。共有部のクールビズ/
・ノー残業デーの実施	×	ウォームビズ運動、電源OFF活動共に徹底しており、定着している。
・使用電力量の案内で節電意識向上	○	(電気使用量の管理は、ビル一括管理のため、消費電力と金額が比例していない)



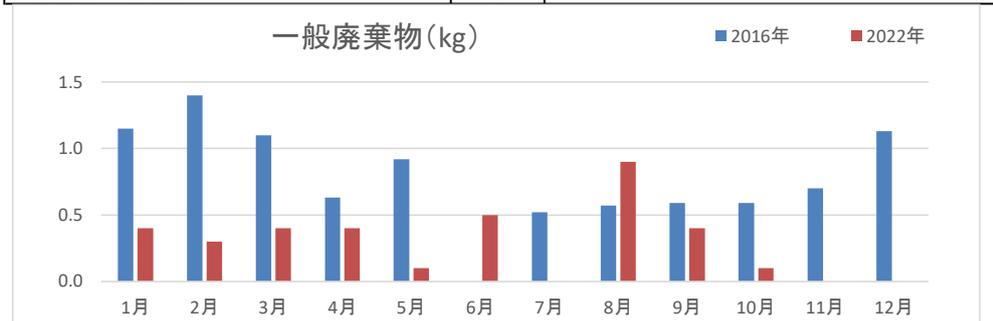
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2016年	590	713	565	379	367	382	569	657	482	482	367	439
2022年	629	494	349	356	344	411	479	580	387	315	300	577

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	コロナ禍により現場工事案件がなくなり、自動車での移動が減少したので目標値を大きく下回る。引き続き公共の移動手段を検討し、使用量の確認・周知を行う。今後は運転時には急加速の抑制や経済速度での走行などエコドライブを定着させるように心掛ける。
・アイドリングストップ	○	
・事前経路確認で無駄な走行を無くす	○	
・遠方出張は公共の移動を呼びかけ	△	



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2017年	50	54	30	30	30	25	40	50	49	30	30	74
2022年	0	25	29	30	25	0	25	30	25	28	22	15

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	目標値を達成できている。裏紙使用なども行い3R運動や私物ゴミ持帰りなどの適正廃棄は、継続取組みができています。また循環資源の廃棄物処理では とよなか市民環境会議アジェンダ21を利用し、地域の環境活動にも貢献していく。
・分別の徹底	○	
・シュレッダー廃紙のリサイクル化	○	
・帳票見直しによる印刷物の削減	○	
・梱包材の再利用	○	



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2016年	1.2	1.4	1.1	0.6	0.9	0.0	0.5	0.6	0.6	0.6	0.7	1.1
2022年	0.4	0.3	0.4	0.4	0.1	0.5	0.0	0.9	0.4	0.1	0.0	0.0

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	-	行動目標として節水意識を高め取り組んでいる。共同管理のため数値が出せないが、張り紙掲示をして節水意識を高めていく
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・節水運動を引き続き呼びかる	○	



グリーン購入の推進	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	事務用品はすべてグリーン対象商品を購入しました。今後も引き続き
・有害性の少ない資材の購入	○	
・省エネ性能の高い電気製品の購入	△	
・燃費のよい自動車の採用		
・事務用品グリーン購入比率向上	○	



環境に優れた産業用装置の開発	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・省エネ機器の選定による設計	△	顧客開発案件で、動力機器をエアーシリンダーから電動機器へ変更し省エネ設計を実施できた。引き続き省エネ設計を提唱するよう努めます。
・省力化のシステム構築設計を推進	○	



環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物
グリーン購入法	購入品・調達品、購入先・外注先
顧客要求事項	品質管理

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、違反、訴訟等これまでありませんでした。

緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 2022/10/29	■実施場所 事業所内
■参加者： 従業員全員	
■実施内容： <input type="checkbox"/> 通報訓練 <input type="checkbox"/> 消火訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 避難訓練 室内設置の湯沸しポットから出火を想定、消防署への連絡と消火器による消火訓練を実施	
■評価： 手順書の通り適切に行動ができた。通報→消火→避難 避難所要時間は、1分30秒でした。	手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

緊急事態の想定： 地震の発生	
■実施日： 2022/10/12	■実施場所 事業所内
■参加者： 従業員全員	
■実施内容： <input checked="" type="checkbox"/> BCP訓練 <input type="checkbox"/> 消火訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 避難訓練 BCPへの取り組み、南海トラフ地震を想定 避難と各協力会社への連絡、BCP訓練を実施	
■評価： 安全確認→避難→安否確認→状況確認と関係部署へ連絡 所要時間は、3時間でした。	手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2022年2月3日

<p>省エネルギー、資源有効利用に関する取組みは、PDCAサイクルを遵守し的確に遂行できています。 今後も現状維持を図れるように、引き続き周知徹底する。 環境負荷を考慮した技術開発に関しては、新たな方向性を見出し、継承運用したい。 これまでに蓄積した環境配慮設計の実績を対外的に技術をアピールし、新たな事業展開へ繋げられるよう環境経営に取り組みます。 またBCP取組の推進改善を図ると共に、EA21活動の進捗確認と効率化に努めた取り組みを実施します。</p> <p>事業継続力強化計画の認定を頂きました。自然災害等の発生が事業活動に与える影響を極力抑えられられるように計画に基づいて取り組んで参ります。</p>

環境経営方針	<input type="checkbox"/> 変更なし	<input checked="" type="checkbox"/> 変更あり
環境経営目標・計画	<input type="checkbox"/> 変更なし	<input checked="" type="checkbox"/> 変更あり 実績を踏まえて見直すこと
実施体制他	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり

□これまでの環境活動の紹介

1.環境負荷技術開発について

弊社では環境負荷を考慮した技術開発に努めています。
テーマの一つとして”省エネモード運転となるソフトウェアの提供”があり、
ユーザに提案し採択されるようになってきました。その一例をご紹介します。
製造ラインに於いて稼働率を上げることは重要課題です。
しかし機種変更による段取り替え作業等で、装置はどうしても待機状態もしくは停止状態が発生します。
待機状態の時は装置が稼働状態(運転状態)となっていますので、電気消費量に加算されてしまいます。
装置がこのような待機状態時に、出来る限り電気容量を抑える装置運転を弊社では心がけ設計します。
待機状態となった時はエコ運転モードに切り替わり、生産開始時にはすぐに生産可能な状態に
復帰させるような装置運転制御設計を提案、実施しています。

2-1.資源有効利用の促進



廃棄物を循環資源廃棄物と一般廃棄物とに
分別し、集計処理しています



ペーパーレス運動に取り込んでいますが、
コピーする場合は裏紙、両面コピーを
徹底しています

2-2.資源有効利用の促進



水道水の削減に対し、水使用量は共同管理で
数値管理ができていませんが
節水運動を展開し日々節水に努めています



空調適温化
サーキュレータや足元に絨毯を敷き
空調適温化に役立っています

2-3.エコアクション21への取組み継続

2015年には、エコアクション21の取組みが10年継続という節目を迎え、感謝状と記念品を頂きました。
今後も、この活動を継続していきます。

